

令和5年度 園自己評価表

社会福祉法人 清香会
大塚りとりばんぷきんず

園は常に質の高い保育が求められている。

そのために自己評価を通し保育の専門性を見つめる機会として評価を実施し、さらなる保育の向上を目指していく。

【評価指標】

- A … 適正
- B … 一部、改善を要する理解している
- C … 改善を要する

【評価内容】

1、保育理念・目標・計画・評価

内容	評価	意見・改善策
保育所保育指針と保育理念・目標の関係を理解し、全体の計画を作成している	A	組織テーマと園テーマを決め、保育に繋がりを持たせている。 コロナ感染症が5類になり、地域の交流も増えてきた。今後は、小学校との連携も積極的におこないながら、幼児期までに育ててほしい10の姿を達成することに意識を向けていきたい。発達への理解は、研修等でさらに深めていきたい。
全体の計画に基づいた具体的な指導計画を作成している	A	
多様な保育需要に対して地域や保育所の特性を考慮した柔軟な計画を作成している	A	
各年齢の発達段階を理解し、それぞれの年齢にあった指導計画・個々の発達にも留意したものを作成している	A	
保育士は自らの保育実践を振り返り評価し専門性の向上や改善に努めている	A	

2、保育内容

子どもの発達過程やその連続性を踏まえ、保育や生活の中で「ねらい」や「内容」が達成されるよう必要な事項に配慮して保育をおこなっている	A	子どもの発達や家庭状況などを理解し、子どもの成長を促すことが出来るようにしている。 子どもが主体的に活動に参加出来るようにサークルタイムをおこない、子どもの意見をくみ取るようになってきた。 行事では、前年度の反省や保護者アンケートを参考にして計画をたてている。また、日頃の保育から繋がっていくような演目になっている。
子どもの気持ちを理解し信頼関係を築いている	A	
子ども達が日々過ごすための安全な環境や適切な衛生状態に勤めている	A	
身体的、精神的、情緒的発育や家庭環境及び食事習慣など、総合的に多面的に子どもの状態を把握している	A	
行事の計画・実施・評価・改善の体制をとっている	A	

3, 園の組織・役割分担

内容	評価	意見・改善策
豊かな集団の育成を目指したクラス経営が進められ、各クラスの連携が円滑に行われている	A	法人研修や園内研修を実施し、人間性・専門性の向上に努めている。 リスク会議を毎月おこない、事故報告や事例検討を通して、危機管理についての意識を高めている。 火災・地震・不審者侵入など、ビルの防災センターと連携をとりながら訓練している。
保育に関わるさまざまな知識や技術の向上に努め研修に参加し、自己研鑽を積んでいる	A	
全職員は施設内外の環境維持向上に努め、安全策の共通理解や体制づくりに努めている	A	
職員間で報告・連絡・相談の体制が機能している	A	
火災・地震・不審者侵入などの危機管理に努めている	A	

4, 家庭・地域社会

家庭と連携を図るように努めている	A	登降園管理システムを使っての保護者とのやり取りや、送迎時の細かい連携をおこなっている。 LINE ビジネスを活用し、子育て講座や見学等の案内やほけんだよりを配信している。
関係機関と連携を図っている	A	
地域や保護者の意見を施設運営に反映している	A	
地域の子育て家庭に対し情報発信をしている	A	

5, 事務管理・運用

個人記録簿は適切に記載し整理保管している	A	守秘義務について、職員研修で共有している。個人記録簿は、チェック簿を活用し整理している。
職員に園内で知りえた事柄に対しての守秘義務の周知徹底をしている	A	
各種会計を適正かつ適切に処理している	A	

6, 情報発信

園だより、クラスだより、給食だより、ホームページなどで施設の情報を発信している	A	登降園管理システムで園だより等は、配信し、園での様子が分かるようにブログで発信している。
---	---	--

※今年度は、第三者評価を受審し、評価結果は、東京福祉サービス第三者評価に掲載。